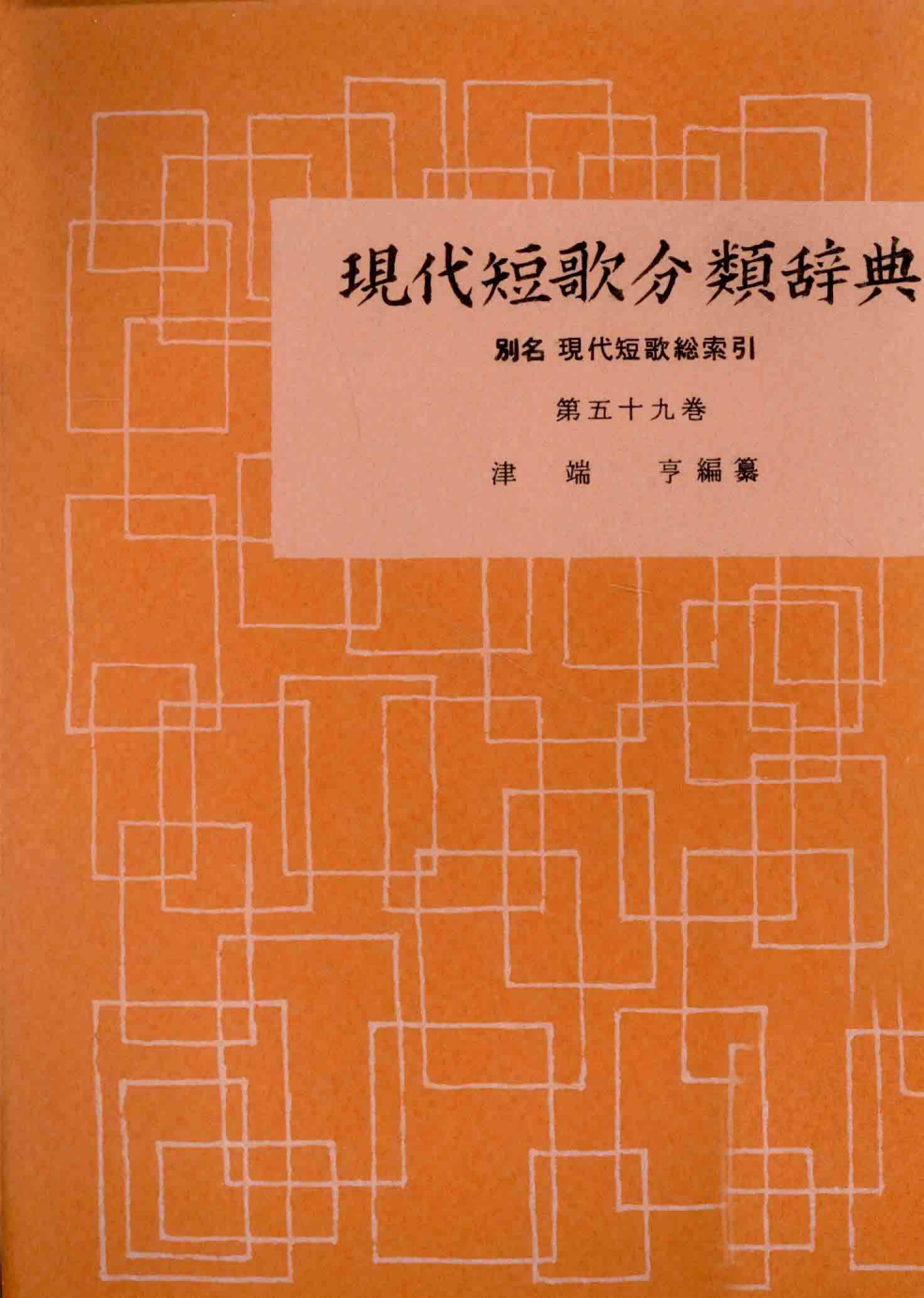




現代短歌分類辭典

別名 現代短歌總索引

第五十九卷

津 端 亨 編纂

津 端 亨 編 纂

現代短歌分類辞典

第五十九卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辭典

59

昭和五十六年十二月二十日発行

定価一、八〇〇

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

〒111

東京都台東区烏越一―十一―八

発行所

現代短歌分類辭典刊行所

代表者 津 端 亨

振替 東京 三―九三一―四
電話 〇三―八五一―九八六九

目

次
(第五十九卷)

歌数	頁数	歌数	頁数
六〇	一	一一	八
一	あをこま	一	九
一	あをこめ	一	九
一	あをこも	二	〇
一	あをこもり	一	〇
一	あをこもる	二	〇
一	あをこんぶ	一	〇
一	あをさ	四〇五	〇
一	あをさ(青蓴)	二	四
一	あをさ(青藻)	六	四
一	あをさいかち	二	五
二	あをさかな(青魚)	一	五
二	あをさかき(青櫛)	一	五
二	あをさぎ(青鷺)	一	五
一	あをこぶ(青昆布)	一	九

あをさぎづれ

七

四

あをさびふね（青鯖舟）

一

五

あをささ（青笹）

三

〃

あをさびも（青さび藻）

一

〃

あをささげ

一

五

あをさぶる

一

〃

あをささだに（青笹谷）

一

五

あをさむ

二

五

あをささなみ

二

〃

あをさむく

二

〃

あをささはら（青笹原）

二

〃

あをさむる

一

〃

あをささむら（青笹むら）

二

〃

あをさめ（青鮫）

三

〃

あをさなへだ（青早苗田）

一

五

あをさめ

三

五

あをささやま（青笹山）

一

〃

あをさめがほ

一

〃

あをさば（青鯖）

四

〃

あをさめーてーけむ

一

〃

あをさばいろ（青鯖色）

一

〃

あをさめーし

三

〃

あをさび（青鯖）

八

五

あをさめーた

三

〃

あをさび（連用形）

三

〃

あをさめーて

七

〃

あをさびーし

四

五

あをさめーたらーん

一

〃

あをさびーて

七

五

あをさめーにーけり

一

〃

あをさびーにーけり

三

〃

あをさめはてーて

一

〃

あをさびーぬ

二

五

あおざめゆきーて

一

〃

あをさめゆく	一	六	あをしそ（青紫蘇）	三〇	二七
あをさめる	一	〃	あをしだ（青羊歯）	二	二九
あをさや（青莢）	四	六七	あをしだむら（青羊歯群）	三	二三
あをさら（青皿）	一	〃	あをしづく	一	〃
あをさる（青笹）	一	〃	あをしーと	三	〃
あをし（5）形容詞	二三	〃	あをしーとぞ	一	〃
あをし（4）	一八	八五	あをしとど（青鴎）	一	〃
あをし（3）	二〇	二〇	あをしーとーも	一	〃
あをし（2）	八五	二〇	あをしどり	一	〃
あをし（5）	九	二七	あをしーなど	一	〃
あをし（6）	六	二〇	あをしぬ	一	三四
あをし（7）	二	〃	あをしね（青稻）	一	〃
あをじ（蒿雀）	四	三三	あをし（青篠）	二	〃
あおしか（青鹿）	一	二六	あをしば（青芝）	一四	四六
あをしこぐさ（青醜草）	一	〃	あをしば（青柴）	二	二
あをしげやま（蒼繁山）	一	〃	あをしばがき（青柴垣）	二	二
あをじと（青鹿壁）	一	〃	あをしばぐれ	一	一

あをしばなか	一	一四七	あをじゃしん	七	一七三
あをしばはら(青芝原)	一五	"	あをシャツ	一	一七三
あをしばふ(青芝生)	一〇	一四八	あをしゆすいろ(青縹子色)	一	"
あをしばやま(青芝山)	一	一四九	あをじゆずだま	一	"
あをしばをか(青芝丘)	一	"	あをじら(鶯雀等)	一	"
あをしぶかき(青渋柿)	一	"	あをしらけたる	二	"
あをしほ(青潮)	一七五	一五〇	あをじる(青汁)	一	一七四
あをしほなみ(青潮波)	四	一六四	あをじろ(青白)	八	"
あをしま(青島)	一〇	一六五	あをじろい	二七	一七五
あをじま(青縞)	二	"	あをじろう	一〇	一七八
あをじまけむし	一	一六六	あをじろき	一三	"
あをしまじま(青島々)	一	"	あをじろく	八	一八八
あをしまのうみ(青島海)	一	"	あをじろくこそそ	一	一九五
あをしまのみや(青島の宮)	一	"	あをじろくーして	五	"
あをじめり	一	"	あをじろさ	一	一九六
あをしーも	六二	一六七	あをじろし	七	"
あをしもと(青栳)	一	一七三	あをじろみ	五	一九七

あをじろみーけり	二	一九七	あをすぎやま	二	二〇六
あをじろみーたり	二	一九八	あをすぎる	三	〃
あをじろみーつつ	三	〃	あをすが(青菅)	五	〃
あをす(青洲)	一	〃	あをすがはら(青菅原)	三	二〇七
あをす(青簾)	二	〃	あをすずかね(青鈴鹿嶺)	一	〃
あをす(青酢)	一	一九九	あをすすき(青芒)	三五	〃
あをすがたけ	一	〃	青芒原	二	二〇〇
あをすがはら(青菅原)	一	〃	青すすき路	一	二二
あをすががま(青清蒲)	一	〃	あをすすきむら	二	〃
あをすがはら(青菅原)	一	〃	青芒山	一	〃
あをすがやま(青清山)	二	〃	青裾野原	一	〃
あをすぎ(青杉)	四五	二〇〇	青裾原	一	〃
あをすぎ(歌集)	二	二〇四	あをすだれ(青簾)	七	二三
あをすぎーて	一	二〇五	あをすだれーして	一	〃
あをすぎな(青杉菜)	一	〃	あをすぢ(青筋)	一	〃
あをすぎむら(青杉群)	四	〃	あをすぢあげは	一	二三
あをすぎーやう	一	二〇六	あをすじの池	一	〃

あをずっぱい	一	二三	あをせん(青線)	一	三〇
あをすな(青砂)	三	〃	青線地帯	一	三二
あをすみ	三	〃	あをそのやま(青麻の山)	三	〃
あをずし	一	二四	あをぞめ(青染)	一	〃
あをすみーて	六	〃	あをそやま	一	〃
あをずむ	一三	二五	あをぞら(青空)	二、三〇	〃
あをずめーば	一	二六	あをぞら(雑誌名)	一	三三
あをずめーり	四	〃	あをぞらいろ	一	三四
あをずめーる	二	〃	あをぞらかりざ	一	〃
あをすもも	一	二八	あをぞらしやこ	一	〃
あをずり(青摺)	五	〃	あおぞらのあし	二	〃
あをすんど刃	一	二九	あをそらまめ	一	〃
青西瓜	一	〃	あをぞり(青刺)	一	〃
あをせ(青瀬)	五	〃	あをた(青田)	二七	三五
あをせきれい(青鸚鵡)	一	三〇	あをたあかり	一	三七
あをぜに(青銭)	三	〃	あをたあひる	一	三八
あをぜり(青芹)	一	〃	青大将	四	〃

あをだいだい	二	三六
青田稻原	一	三九
青唐辛子	七	〃
あをたおもて	一	〃
あをたか(青鷹)	二	〃
あをたかがや	二	三四〇
あをたかがら(青高稗)	一	〃
あをたかはら	二	〃
あをたかげ(青田光)	一	〃
計	四、八六首	
作家表		三四二
付号付短歌明細一覧表(一〜四七)		

「資料カード 五七五、三〇〇首の内より」

あをこけ【名詞】〔青苔〕

すみたてる林のおくゆ光もる夕日美し青苔の上に⑥

水干の宮の子去りし齊庭ゆにばには夕光及び青苔のてり（多磨二）

逍遙の墓の青苔あをこけいや深く古線香も崩れみしかな㊟（中野逍遙）

石塔の笠の青苔こごりたち物の木生えて育つを見たり③

石庭せいていに冬の日のさしあらはなりまだ凍みきらぬ青苔のいろ⑥

瀬の中の青苔あわむ生せる平石に紅椿こそ落ちたまりたれ⑤

底くらき谷の青苔に落ちむとして水は氷柱となりけるらし（新万葉集五）鶴見英之

そぞろみて右も左も只さみし墓石にしめる青苔の色（多磨一）脇須美

高原の小暗こき木こした丈たかき青苔生ひて光りつつ続く㊟②窪田空穂

竹むらを洩るる陽うすし青苔のしめりを踏みて我ら歩めり①加藤淘綾

高山のみ寺の庭を埋みたる青苔の香をいとほしみする①原真弓

あをこけ

島木赤彦

大西とき子

吉井勇

鈴木康文

北原白秋

吉野秀雄

鶴見英之

脇須美

窪田空穂

加藤淘綾

原真弓

あをこけ

丈低き幾もとの竹が落す影青苔のうへに軽くもゆるる⑮

窪田 空穂

たたかひはいつかまた熄^やまむ冷えびえと濡る庭石の青苔のいろ(多磨二)中川 武
たり水を手にうけて飲む岩の蔭ほのかに咲ける青苔の花(新万葉集八) 村木 雅美

槻の木の根もとに生ふる青苔のいろつやつやし春さりにけり②

小泉 芑三

積み上げしままにただ置く大谷石に青苔生ひぬ裾の方は濃く⑤

長谷川 銀作

つゆあがる木立にふきし青苔の乾く日ざしは午をすぎたり①

村田 利明

梅雨の空にあかるくさけるベコニヤの粗き土鉢に纏ふあを苔

宇都野 研

梅雨やみて庭のすがしき青苔に南天の花こぼれて白し(多磨三)

佐藤 伝助

常盤木の密度濃き径ひかりこぼれガラス状をなして青苔尖る①

金子 信三郎

庭の鮮苔^{あせこけ}枯れきらずして降りそぼつこの寒の雨にうちほとびたり⑤

若山 喜志子

庭の上に生ひひろごれる青苔にさし来て秋日しみ入らむとす⑩

窪田 空穂

女人堂の青苔くろむ板^{いた}廬^{いぼ}いまは夕日もなくなりけり⑥

川田 順

春ひと日雪とけきゆる青蘚の林のほひ日を浮けにけり（馬鈴薯の花）

春ゆくはしづけかりけりうるほひて青苔深ききだはしのぼる②

久しくも降らざりし雨けふ降りて庭の青苔色増しにけり③

一草もなき石庭の白砂に色そふほどの青苔をみぬ

ひとつの塵だにすゑぬ青苔にさつきの雨はしみて降るかも②

雛つばめ列ぶ巖のあを苔をしたたる水は絲ながら引く⑩

日のひかり明るく洩れてさせるあり石組あらき青苔の上に①

昼時雨はれむとすらし薄陽さす庭の青苔色まさり見ゆ③

昼もなか虫しげかりし松原の青蘚のいろ思ほゆるかも①

干割れせる庭に朝昼うつ水にかすかに現れ生きつぐ青苔②

繽紛^{ひびん}と青苔に散る梅の花比良八荒に頸ちぢめたり③

ふかぶかと青苔生ふるひとところ細き木立は浮けるごとしも⑤

あをこけ

島 木 赤 彦

村 田 利 明

中 沢 庭 柯

遠 野 さだ子

中 沢 庭 柯

松 村 英 一

大 場 寅 郎

岡 本 大 無

高 田 浪 吉

窪 田 章 一 郎

中 沢 庭 柯

半 田 良 平

あをこけ

塀際に光る青苔見つつ来てこの別れ路をいづべに行かむ④

太杉のひはだ掩へる青苔はしらじらと光ふふみたるかも①

太幹の椿の根ろの青苔もさやにあらひて井戸は晒すも①

降りすぎて青苔すべりおつる雨山も狭間もとよみてすぎぬ②

ふりつぎし雨にぬかるむ墓はらやうす日かがよふ青苔の上に①

矛杉にとりかこまれし庭土や日影乏しき青苔のいろ

仄赤きつはぶきの芽の目につきて青苔の中につのぐみにけり①

まさびしく坐すと思はめや青苔のゆたけき庭に慰ますらし③

松の落葉黄楊の落葉のひからびてかわく青苔のうへに敷きたる④

松ばらの下をおほへる青苔に漏れ来る日かげまばらにゆらぐ

水元に董の花の咲きゐたり青苔むせる石の狭間に（トラピスト歌集）

身に湧きてみだるる想ひしづめむと眺めなれゐる庭の蒼苔②

高橋 希人

原 真弓

古泉 千樫

村田 利明

染谷 進

結城 哀草果

中井 コツフ

高橋 英子

高田 浪吉

湯本 禿山

三木 羅風

岡崎 義恵

み冬づき蘇鉄の幹の青苔の淡き色にも眼をひかれ易し①

群りて真白つつじの咲き光れり庭の青苔すきて清しき①

縦の下あを苔厚くきよき上に痛まんとするわが腰を置く②

屋根石に青苔むして夕くらみ降りつぐ雨にいよよ色濃く④

山霧にふかくぬれたる青苔をわが靴の下にやはらかく踏む①

山吹の黄に染みし葉のはらはらと簾や触れし青苔に落つ⑭

湯上りの頬につめたくも沁むものか青苔持てる北庭の土⑭

焙岩に生ふる青苔うつくしみ手触れむとして触りはかねつも⑦

世にそむく心のごとく倒れ木に蒸せる青苔ひかりを湛ふ④（角川文庫）

昨夜ふりし雨にぬれたる御墓辺の青苔の上に靴はすべるよ①

老梅の太朽幹の青苔のおのづからなる古色したしも⑭②

わが庭の青苔ほめて一すくひもちて帰りぬばら植ゑしのち⑦

あをこけ

荒木 暢 夫

中 井 コツフ

窪 田 空 穂

金 子 不 泣

小 宮 良 太 郎

窪 田 空 穂

窪 田 空 穂

窪 田 空 穂

吉 野 秀 雄

吉 田 正 俊

吉 井 勇

四 賀 光 子

あをこけいし

井の中をのぞきて見れば青苔の透きて見えけり春の一日に

三木羅風

あをこけいし【名詞】〔青苔石〕

用水を浚ふとならし川底の青苔石に水の減れるは①

森山汀川

あをこけす【動詞】〔青苔す〕

鎌倉の井戸は丸きも角^{かく}なるも皆青苔す石の古りけむ①

築地藤子

あおこけづける【動詞・助動詞】〔青苔づける〕

雪つもる国のはたての海渚青苔づける岩ぬるる音⑦

高田浪吉

あをこけはら【名詞】〔青苔原〕

クシヨンなしふはりふはりところよき青苔原は妹思はしむ③

吉植庄亮

あをこけふどう【名詞】〔青苔不動〕

水そそぎ去りたる人の後に立ちわれもかけ申す青苔不動⑯

松村英一

あをこけみづ【名詞】〔青苔水〕

夕づきて足たどたどしみ山べの青苔水をかはるがはる飲む①

森山汀川

あをこけむら【名詞】〔青苔村〕

岩の上を青苔むらに根を張りて生ひし二尺の木もみぢせり③

鈴木康文

あをこけやま【名詞】〔青苔山〕

はちうゑの青苔山のおきふしに流れは白く砂まきたる

平福百穂

あをゴス【名詞】〔青ゴス〕

劫初よりたたへ来にける青ゴスの冷えさびにつつひと壺の湖⑨

太田水穂

あをこち【名詞】〔青東風〕

青東風の御鈴の響となりにけり下座の心咒のなほ勢ひつつ（多磨一）

吉田恵弘

青東風は御堂吹き抜くしばしばを胎蔵界曼荼羅の光りて揺れつつ

吉田恵弘

あをこば【名詞】〔青木葉〕

青木葉の今年葉のいろ瑞々と霑れてはこぼす雨の雫を②

塚田菁紀

あをこけむら